

## 第 7 回 札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会 議事要旨

日 時：平成 23 年 11 月 30 日（水）午前 10 時

場 所：札幌市民ホール 第 1・第 2 会議室

### 議事要旨

#### 委員長挨拶

前回からかなりいろいろな視点から重要なお発言をいただいて、今回の委員会に来ました。これからは委員会を余りたくさん開くことはできないと思うのですが、今日が山場とご理解いただいて、いろいろなお立場からご意見をいただければ幸いです。

#### 1. 前回委員会議事について

～資料説明：前回委員会議事要旨について(資料 1)～  
異議なく承認

#### 2. 札幌駅交流拠点再整備構想案について

～資料説明：札幌駅交流拠点再整備構想案について(資料 2)～

#### 【東日本大震災と東北関連の記述について】

- ・東北人の立場で考えてみると、北海道は東北の子どもと理解している。支援するのはそうなのだが、支援するという言葉だけではなくて、連携しながらサポートしていきましょうということを意識された方がいい。連携、支援ということ。
- ・ヒト・モノ・情報が最初のコンセプトにある。ヒトの流れとモノの流れに加えて、情報の流れも非常に大事。政令市とどう連携するか、東北とどう連携するか、防災に対してどういう的確な情報を出し得るのかということも含めて、ここはヒト、モノだけではなくて情報ということも加えていただければと。

#### 【スマートエネルギーネットワークについて】

- ・まちづくりと一体になってスマートエネルギーネットワークを実現するというのを考えると、新規で開発が起きたときにどうやって接続していくのかということを考えていかなければいけない。ショーケースになるにはみんながそれを使わなければいけないということ。

- ・イギリスでは、プラントから500メートル圏内は全部接続しないといけない義務化と、導管の負担金の徴収が始まっていて、そこまでやらないとみんながつながる形にはならないのだと思う。
- ・そこをどう考えるか。そこまでできないから、低炭素型の都市づくりのショーケースをつくっていくための努力をするというところで終わるのか、それとももう一步進めて何らかのアクションをやっていくようなところまで考えるのか。
- ・それを実現していくために必要性等を検討するためのエリアマネジメントということであれば、また話がつながっていく。市はどこまでお考えなのかというところになると思う。
- ・熱や電力のスマート化は、経産省レベルでは概念的に提言したり提案したりしているが、それを具体的にどういうところで、どんなシステムで開発と結びつけながら展開するのかということは、環境局だけではできないから、きちんと都市計画サイトで受けてやらなければ実現できない。それをまちづくり推進室ではやるつもりがあるのですか、ということをお問われたのだと思う。

#### 【スマートエネルギーネットワークの定義について】

- ・スマートエネルギーネットワークの定義がない。何となくみんなは頭の中でおののが持っているのかなということが気になる。
- ・私が持っているスマートエネルギーネットワークの定義は、電力関係についてはスマートグリッドという概念が出ている。一方で、東京ガスなどが主導して、電気だけではなく、熱についてもエリアネットワークができるということで、スマートグリッドを発展させ、熱・電気が連携してマネジメントさせるのがスマートエネルギーネットワークの概念として東京ガスが提唱しているものというのが私の理解。
- ・スマートエネルギーネットワークという言葉が今度は熱供給事業者と密接に連携しているのは理解しているが、電気事業者やガス事業者も含めた、もっと幅広い概念なのかと思う一方で、後ろの方では、スマートエネルギーネットワークのところに熱供給事業者が前面に出ている。スマートエネルギーネットワークの概念がもう少しきちんと整理されないと、議論が双方向になってしまう。

#### 【新幹線延伸の効果について】

- ・北海道新幹線が札幌まで来たときに、道央、道北、道東へ結ぶ観光や各地方拠点への高速アクセスという表現をつけ加えていただければ、使い道や役割がもっとふえてくるのではないかと思う。

#### 【電車について】

- ・「路面電車は」から「実現すべき必要な要素である」までの五、六行が何となくぎくしゃくしている感じがする。

→そろそろ活用計画をつくる段階に来ており、総合交通計画との連携も含めて、もう少しわかりやすくはっきり協議させていただきたいと思う。

### 【再整備の基本的考え方について】

- ・再整備の基本的考え方として、四つ書いてある。最初に魅力ある都市の風景づくりと書いているのですが、これではちょっと弱い。すごく単純に言うと、こういうようなエリアが非常に重要である一方、札幌市としては、北5条西1丁目はどうしていいかわからない部分もある。こういうポテンシャルがあるのだったら、北5条西1丁目を早く売ればいいのかという議論に短絡していく可能性がないわけではない。
- ・ここで書かなければいけないのは、産業創造を支える高次云々ということを前提としながら、北5条西1丁目、5条西2丁目をワンセットで考えて、それに対して公と民が連携して、きちんと展開していくというところが一番大事。
- ・魅力ある都市の風景づくりというよりも、北5条西1丁目を売るとまずいと感ずるような、ここにきちんと札幌市も責任を持ってかかわっていくべきであるということがわかるような書き方をしなければいけない。

### 【エリアマネジメントについて：協議会の位置づけ・責任主体・意思決定者等】

- ・エリアマネジメントとしてやらなければいけないことがすごくたくさんあり、内容も多岐にわたっている。それをまちづくり組織の札幌駅交流拠点まちづくり協議会が全部担うことが本当にできるのか。いろいろな事業者やいろいろなプログラムがあるものの調整支援をこの協議会がやるのか、そこがわからない。
  - ・もし、それをやらなければいけないとすると、どういう位置づけで、どのような仕組みの中で実現化するのか。つまり、後ろ盾がないとどんなに調整してもうまくいかないと思う。この辺をどう考えているのか。
  - ・最近、大丸有のまちづくり協議会の会議に結構出席しているが、何か事業をする際にお金が必要だったり、参加していただくには一軒ずつ回ってお願いして、ただ乗りをされてしまうところもあるので、その辺はすごくご苦労されている。
  - ・札幌駅の周辺でこういうことをやろうとすると、中心的な事業者がいないと、かたち上はアンブレラのようなものをつくってエリアマネジメント機構とするのはいいが、本当にうまくいくのかということとはよく考えないと難しい。
- 
- ・46-47ページ（札幌駅交流拠点におけるエリアマネジメント体制とイメージ事業展開プログラムの想定の部分）は相当理解しづらい。
  - ・例えば、46ページの体制図を企業や地権者に見せて、こういうことを考えているので、まちづくり会社をつくるのに協力してくれと言われても、だれが何をやるのかよくわからなくて、だれが主導するのかわからない。お金を出そうという判断する人は本当に困ってしまう。

- ・だれが何をやるのか、責任主体がだれなのかということがわからない限り、財布は開かないのではないかと思う。
- ・46ページの体制図と一般的に海外で実施されているようなエリアマネジメントの違いは、意思決定のあり方の段階がこの図の中にはないこと。
- ・最終意思決定をだれがして、その次の段階にどんな形があつて、というものがないと、だれが責任をとるのがわからない。調整、連携を横並びにするのは美しそうに見えるが、結局、だれもやらないということになる。
- ・だれが最後に責任をとるのかということを確認にしない限り、まちづくりは進まない。そこを少し考えた方が、最後のお金を集めるときにもわかりやすくいい。

### 3. 札幌駅交流拠点再整備コンセプトについて

～資料説明：札幌駅交流拠点再整備コンセプトについて（資料3）～

【確認事項】コンセプト含め、本日説明した内容に関する意見を年内に事務局にお寄せいただき、それを踏まえて事務局で議論したい。コンセプトは余り複雑ではない、シンプルなものにしていきたい。

### 4. その他：今後の進め方・スケジュールについて

(事務局) 今回の委員会を含めてもう一度委員会を開催し、それが基本的には最後の委員会と考えている。委員会で構想案そのものを提言として取りまとめていただくという段取りで考えている。したがって次回は、事務局からご提案する資料は、でき得る限り最終形に近いものをこの委員会に報告したと思っている（次回は3月ごろ予定）。

(委員長) この報告書は委員会の名前でまとめる。この内容が各部局でコンセンサスをとられたものにならない部分もあるかもしれない。委員会としてとんがった部分が残る得ると思う。委員会として提言する相手は、市長以下の理事、あるいは各部局、市民、企業を念頭に置きながら、委員会としてのまとめにしようと思う。

- ・3月に出てくる案は、事務局案ではなく委員会案で、この下に部会もあり、その意見も十分に組み込む。私の判断でいろいろなことをさせていただくこともあろうかと思う。そんな形で案をつくらせていただければと思うが、よろしいか。

→異議なく承認

以上